

Beyond Imagination and Beyond Boundaries 2030 ～更なる飛躍に向けて～

太陽ホールディングス株式会社
東証プライム 4626
2026年3月31日



本資料の如何なる情報も、弊社株式の購入や売却などを勧誘するものではありません。また、本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点での弊社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではなく、今後、予告なしに変更されることがあります。万が一この情報に基づいて被ったいかなる損害についても、弊社は一切責任を負うものではありません。



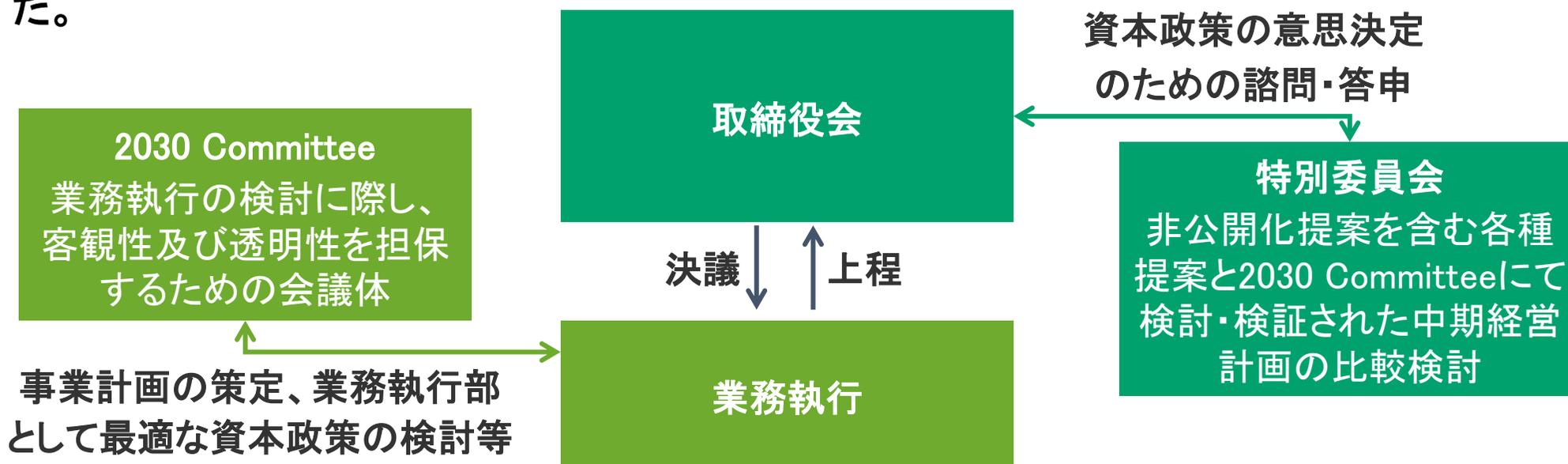
はじめに

- 本日、当社及びKKRは、KKRが運用するファンド傘下のKJ005株式会社を通じて、太陽ホールディングスの普通株式に対する公開買付け(TOB)を開始することに合意いたしました。
- 本件取引を通じた非公開化により、安定的な株主構成のもと、長期的視点に基づいた経営戦略の遂行や、迅速な意思決定が可能な経営体制の構築が実現されることは、当社の成長戦略の遂行にとって有益であると考えております。また、世界有数のPEファンドであるKKRをパートナーとすることで、同社がグローバルにおいて半導体および医療・医薬品業界に有するネットワークや知見を活用することが可能となり、それぞれの事業において成長および構造改革を加速できるものと考えております。
- 当社としては、KKRとのパートナーシップのもと、長期経営構想「Beyond Imagination 2030」を継続しその確実な達成を目指すとともに、さらに単独では実現できない「Beyond Boundaries」の実行を通じて、中長期的に企業価値を向上させ、更なる飛躍を図っていく方針です。
- 本件取引が長期経営構想および中期経営計画の遂行を前提としつつ当社の成長機会をさらに拡大させるものであり、企業価値向上及び株主共同の利益の確保の実現に資するものと判断しております。そのため、当社は2026年3月31日付取締役会において、本件取引に賛同する旨の意見表明に係る決議をしております。

- ① これまでの検討プロセス
- ② 本件取引概要
- ③ Beyond Imagination and Beyond Boundaries 2030

上場維持・非公開化の意思決定における当社の検討体制

- 2025年3月に設置された特別委員会において、非公開化を含む各種提案と2030 Committeeにて検討・検証された中期経営計画の比較検討し、その結果を取締役会に答申しました。取締役会は、特別委員会の答申を受け、非公開化の意思決定を行いました。



2030 Committeeからの提言

- 非公開化を含む各種提案の検討に際し、当社が保有する経営資源や独自戦略のみでは得られない付加価値を生み出す提案であるかを考慮に入れ検討を行うこと。
- 法的拘束力のある提案を受領するプロセスを進めた上で、上記観点を満たす提案を受領した場合には、非公開化の是非を含む資本施策について、十分に比較検討を行うこと。

これまでの経緯・検討プロセス(1/3)

- DICに対して当社への関心を示したKKRを含むPEファンド3社の紹介を契機に、2024年12月以降、KKRを含むPEファンド複数社との間で、中長期的な企業価値の向上に資する施策について意見交換を行い、2025年2月にKKRなどより正式な買収提案を受領しました。
- 2025年3月に特別委員会を設置し、資本政策の検討を続けてまいりました。また、2025年5月には2030 Committeeを設置し長期経営構想「Beyond Imagination 2030」のロードマップである中期経営計画やガバナンスの強化の検討を開始しました。



これまでの経緯・検討プロセス(2/3)

- 中期経営計画を2025年8月に公表し、上場維持も含めた資本政策の検討を行い、2025年11月には2030 Committeeの最終報告として評価や提言を受けました。
- 非公開化検討に関しては、初期的提案を複数社から受領し、そのうちのKKRを含む2社にデュー・ディリジェンスの機会を提供し、2025年12月に当該2社から法的拘束力を有する最終提案を受領しました。



これまでの経緯・検討プロセス(3/3)

- 最終的には、2025年8月公表の中期経営計画に基づく上場維持と、2025年12月に提出されたKKRを含む2社の提案とを比較し、社外取締役から構成される特別委員会がKKRによる非公開化の方針を2026年1月に決定しました。
- その後、KKRとの協議・交渉を経て特別委員会からの答申を受け、本日取締役会で決議し、予告TOBの公表に至りました。
- この後は、国内外の競争法、国内外の投資規制法令に基づく必要な手続及び対応をし、実際のTOB開始はその後となります。



① これまでの検討プロセス

② 本件取引概要

③ Beyond Imagination and
Beyond Boundaries 2030

本件取引の概要

- 本日2026年3月31日開催の当社取締役会において、賛同の意見を表明する旨を決議

公開買付者	KJ005株式会社 (Kohlberg Kravis Roberts & Co. L.P. (以下KKR) によって間接的に運営されているファンドが100%を保有するKJ005HD株式会社が100%保有)
公開買付期間	原則21営業日 (2026年10月上旬を目途に開始予定)
公開買付買付価格	・ 普通株式1株につき、4,750円
買付予定株数の下限	44,648,100株 : 所有割合にして40.12% ※1
買付予定株数の上限	なし
公開買付代理人(予定)	野村證券株式会社
公開買付者と大株主との契約締結内容※2、公開買付け及びスクイーズアウト手続実施後の再出資・自己株式取得	<p>DIC株式会社(以下「DIC」)</p> <ul style="list-style-type: none">・ DICがDIC所有の当社株式について、公開買付けに応募しないこと・ 公開買付けの成立及び株式併合の効力発生、並びに公開買付者による資金提供等及び当社による減資後、当社による自己株式取得に応じてDIC所有の当社株式を売却すること <p>株式会社光和(創業者の親族の資産管理会社。以下「光和」)</p> <ul style="list-style-type: none">・ 光和が光和所有の当社株式について、公開買付けに応募しないこと・ 公開買付けの成立及び株式併合の効力発生後、公開買付者親会社であるKJ005HD株式会社に再出資すること、並びに公開買付者による資金提供等及び当社による減資後、当社による自己株式取得に応じて光和所有の当社株式を売却すること <p>Oasis Management Company Ltd. (関連ファンド又は関連エンティティを総称して以下「Oasis」)</p> <ul style="list-style-type: none">・ OasisがOasis所有の当社株式について、公開買付けの開始後10営業日以内に、公開買付けに応募すること・ 公開買付けに応募した後、応募を撤回しないこと
その他	公開買付け成立後はスクイーズアウト手続により、当社は上場廃止。最終的に公開買付者の完全子会社となる予定

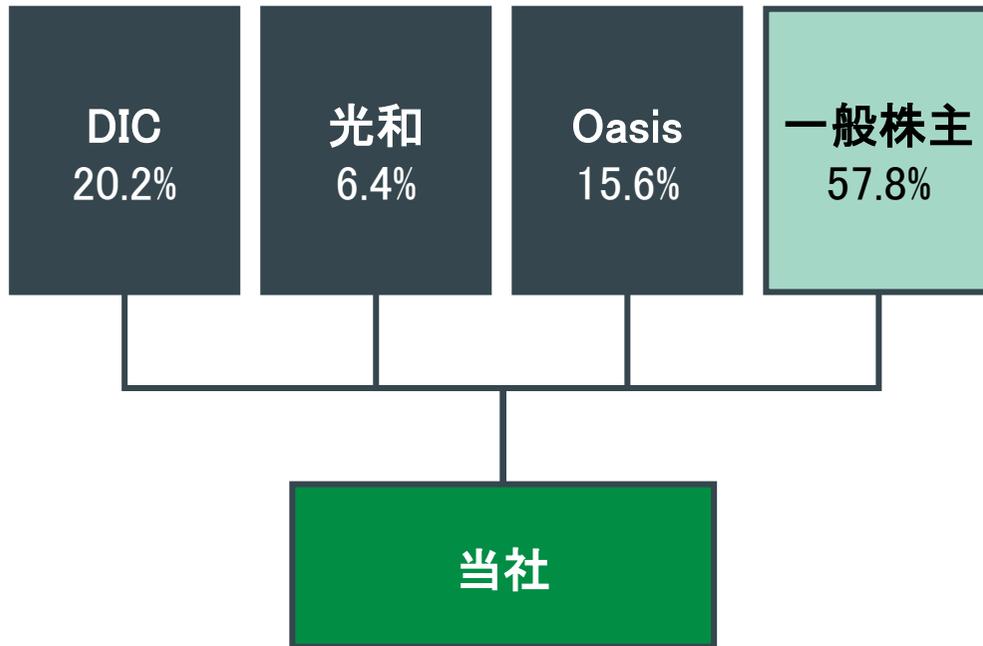
※1: 買付予定数の下限である44,648,100株は、自己株式を除く当社発行済株式総数に係る議決権の数(1,112,767個)に3分の2を乗じた数(741,845個)(小数点以下を切り上げ)から、不応募予定株数(合計: 29,536,400株、所有割合: 26.54%)に係る議決権の数(295,364個)を控除し、当社の単元株式数である100を乗じた株式数

※2: 各契約の詳細は「KJ005株式会社による当社株式に対する公開買付けの開始予定に関する賛同及び応募中立の意見表明のお知らせ」を参照ください

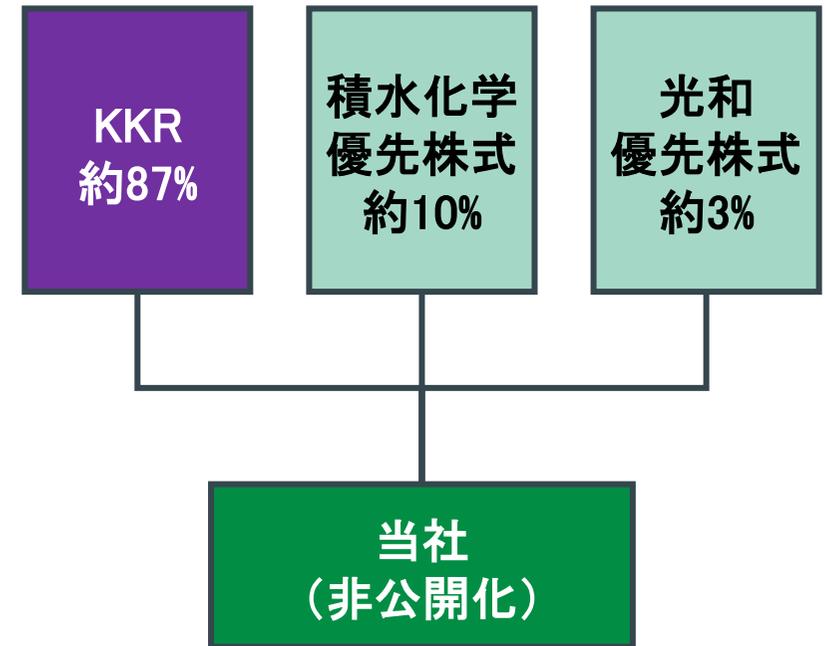
本取引のストラクチャー

取引実行後においては、非公開化され、新たな株主構成となることを予定しています。

本公開買付の実施前の株主構成



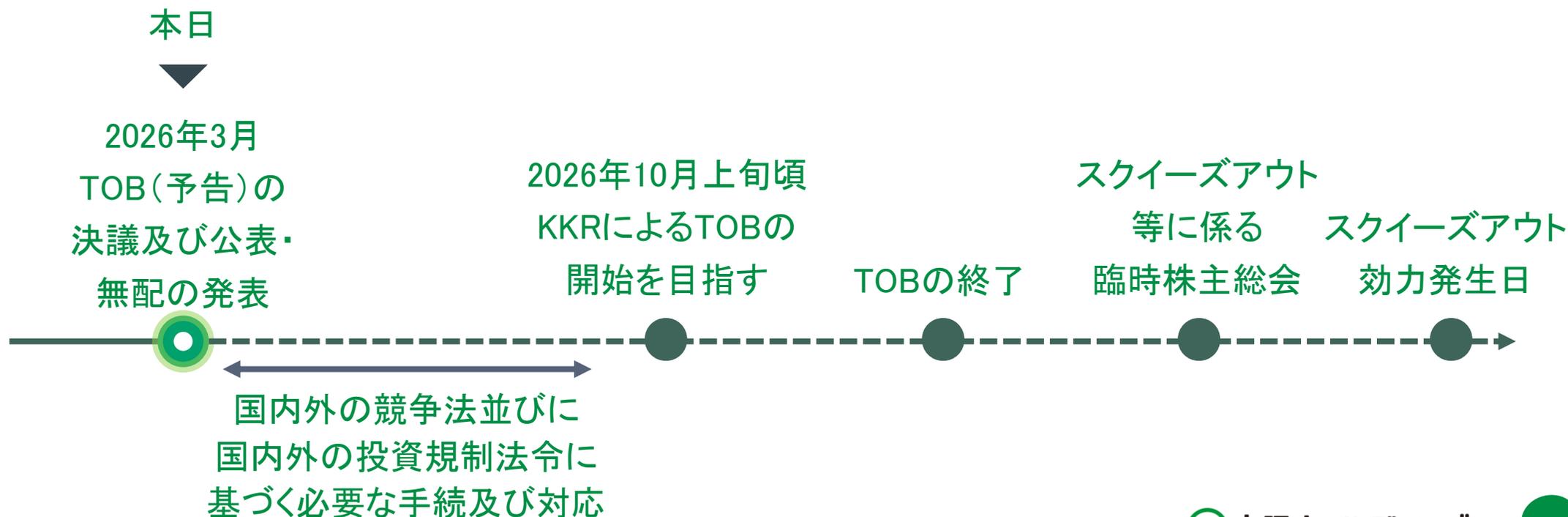
取引実行後の株主構成



取引実行後にはDICとの資本業務提携は解消を予定しております

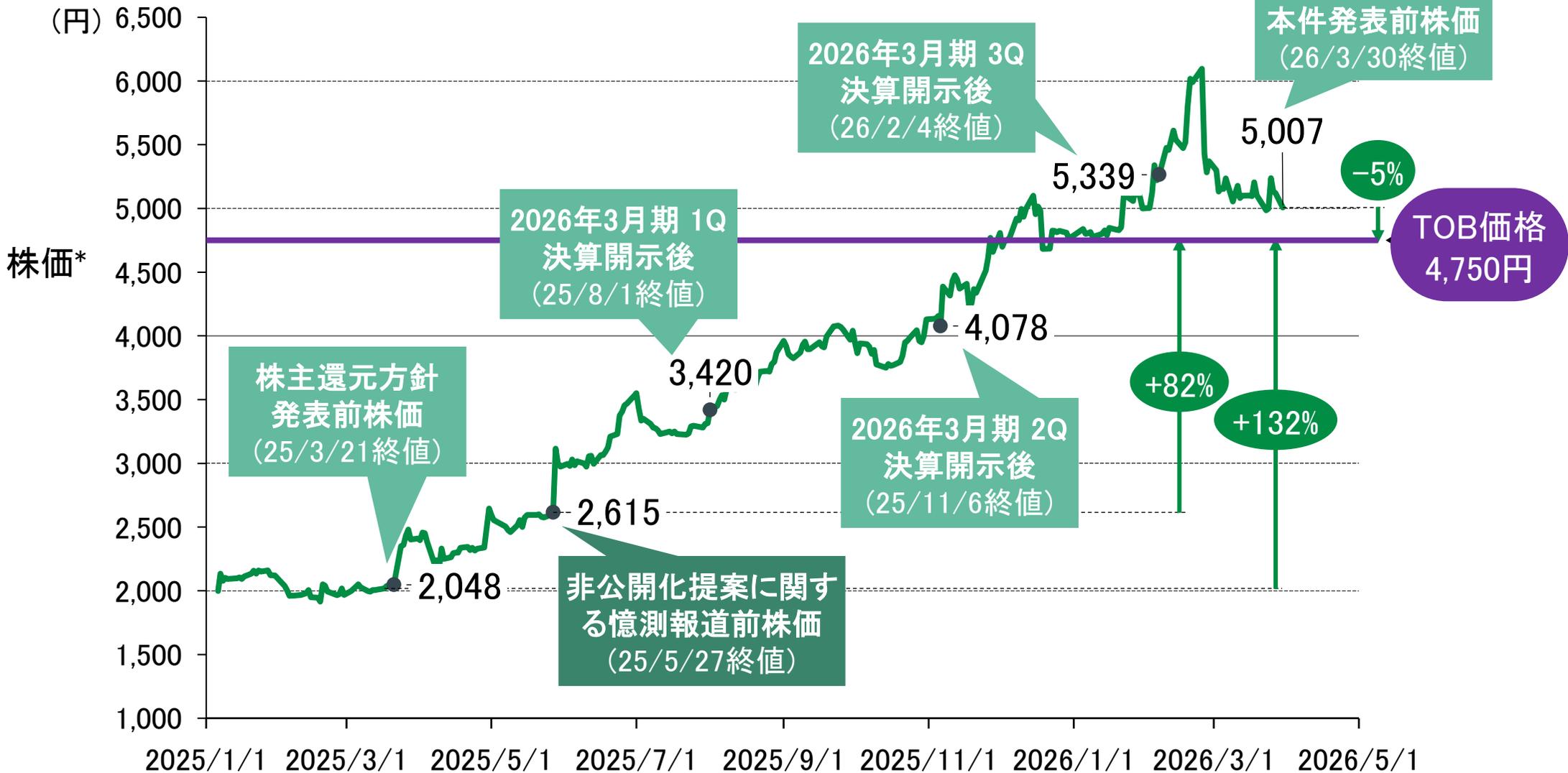
今後のスケジュール

- TOBが行われる予定であることを踏まえ、26年3月期は期末配当を行わないことを決議いたしました。
- TOBの開始は現時点で2026年10月上旬頃を予定しております。
- 但し、現時点において、国内外の競争当局等における各種手続・対応に要する期間を正確に予想することは 困難であるため、決定次第速やかに開示いたします。
- DICとの資本業務提携については、本件実行後に解消を予定しています。



株価推移とTOB価格

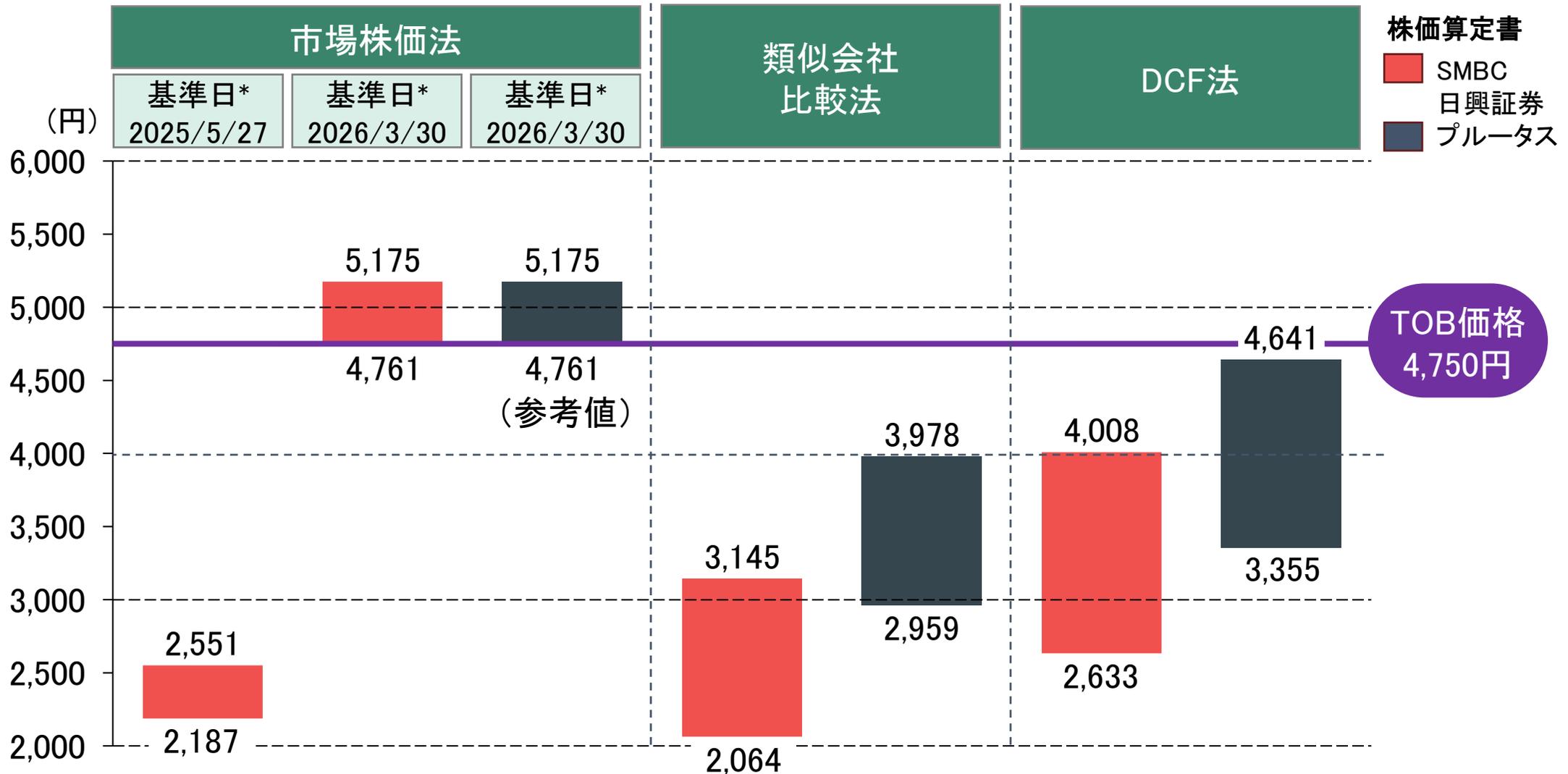
- 本件に係る憶測報道直前の株価に対し他の同種案件を上回る水準のプレミアムを付した価格としております。



* 2025年12月1日付で、普通株式 1株につき 2株の割合で株式分割を実施。本グラフは2025年年初に株式分割が実施されたものとして作成。

株価算定結果と株価とTOB価格

- 株価算定書記載の結果との比較でも、プレミアムを付した価格となっています。



* 基準日から遡って、1か月平均、3か月平均、6か月平均を使用。Plutusは基準日終値も含む

① これまでの検討プロセス

② 本件取引概要

③ Beyond Imagination and
Beyond Boundaries 2030

本件取引を通じて目指す姿

エレクトロニクス事業

- M&Aや資本・事業提携等、非連続的な戦略も活用し、事業機会を拡大し、半導体後工程材料メーカーとして新たな成長フェーズへ

医療・医薬品事業

- 独立した事業としての収益性・資本効率を高め、エレクトロニクス事業に並ぶ第二の柱としての収益貢献を拡大し、更なる成長ドライバーへ

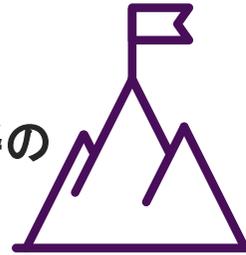
ICT & S事業

- 社会的責任に立脚した事業やグループのを支える事業を展開し、サステナビリティ領域における社会課題解決型ビジネスを展開

長期経営計画 “Beyond Imagination”

本件取引の実行 “Beyond Boundaries”

目指す姿の
実現



2030

現在地



- 市場環境に様々な追い風
- 実績に基づく強固な事業基盤



- 中期経営計画の経営方針を着実に実行
- 機動的で長期的視点に基づいた投資戦略
- グローバル・ネットワークの強化



- 半導体で新たな成長フェーズへ
- 医療を更なる成長ドライバーに発展

本件取引の意義

当社を取り巻く事業環境

エレクトロニクス事業(エレキ事業)

- 生成AIの急速な普及やデータセンター・通信インフラの拡大等を背景に、あらゆるエンドマーケットでエレクトロニクス化が進展しており、当社の事業が関連するプリント配線板市場も、事業機会が拡大
- 半導体パッケージ基板においては、今後のデータ通信量のさらなる増加を背景に、半導体の高性能化に向けた技術進化が継続。後工程であるパッケージング分野における技術革新への注目が一段と高まる状況

医療・医薬品事業(医薬事業)

- 製造販売においては、長期収載品を中心とした事業を展開。医療費抑制政策の一環として薬価引き下げが継続していることに加え、選定療養制度の影響もあり、長期収載品を取り巻く事業環境は厳しい状況
- 製造受託においては、製薬企業による医薬品製造の外部委託の拡大を背景に、製造受託への需要が増加するなど市場機会が拡大

本件取引を行う意義

長期的視点での経営戦略

- 中長期的視点に基づいた経営戦略の遂行が可能
- エレキ事業においては、半導体業界を取り巻く構造的な市場変化を捉えた積極的な投資を実行
- 医薬事業においては、構造改革を推進し、収益性確保と製造受託事業の事業拡大を図る

企業変革のスピード

- 非公開企業となることで、変革を伴う意思決定も、今までにないスピードで進めることが可能

KKRが有する知見及びネットワークの活用

- KKRは半導体関連企業及び医薬品製造受託企業を含む当社事業に関連する領域への豊富な投資実績を有するとともに、グローバル及び国内に広範かつ強力なネットワークを保有しており、その活用を通じ、大きな成長を実現

KKRとのパートナーシップの意義



KKR

エレキ

- 高度な材料技術力と長年の実績を通じて蓄積されたブランド力と顧客からの信頼
- 多様なエレクトロニクス分野にまたがる幅広いエンドマーケットへのエクスポージャーと、グローバルに広がる多様で強固な顧客基盤
- 「地産地消」を実現し、高品質・量産に対応可能なオペレーションノウハウ

- グローバルの半導体関連業界に豊富な投資実績を有し、バリューチェーン全体を通じ幅広く強力なネットワークを保有
- 事業提携・M&Aを含む事業開発および非連続成長機会のソーシング、実行に関する有数の実績。グローバル・ワンファームとして当社のグローバルビジネスの成長をサポート

医薬

- 90年以上の実績と高品質、高評価な製剤工場
- 製薬企業の製造の外部委託拡大トレンドと、新規パイプラインの受注実績
- 高齢化社会により増加する歯科医療の需要を支えるマイ・スターズ

- 受注拡大と収益性改善に向けたベストプラクティスの導入
- 医薬品製造受託や歯科サービス領域を含むヘルスケア領域での投資実績に基づく、業界ネットワークの活用と顧客開拓等の支援提供

ICT&S

- DXの推進やエレキ事業のBCP体制強化等、グループを支える取り組みを通じ事業間でのシナジーを発揮し、グループ全体の企業価値向上への貢献

- ITサービス領域における豊富な投資実績およびバリューアップ経験
- 気候、持続可能性、社会公平性は重要テーマとして取り組み

組織文化

- 多様化する組織や社会に対応する自律型人材
- 職場環境や公正な評価・給与制度の整備で自律型人材の成長・組織開発に注力

- 投資先の本質的な事業成長によって株式価値の向上を投資哲学とし、中長期的な視点での事業成長を支援、人材投資にも注力

